

あきない歳時記

(2)

エステティックサロン
アドバイザー

辻 大作氏

最近は「アジアンヒーリング」というか、アジアの雰囲気を感じさせたエステティックサロンが人気を呼んでいる。内装の豪華さとか、施術の内容などで関西発というケースが増えているように見える。

毎月月末に主要都市のCVSで発行される「ホットペッパー」という無料の雑誌でも関東よりも関西での広告出稿量が多いことからそれが如実に物語っている。つまり関西の方が早く始まっているというところである。それが今後、関東や九

州へ飛び火していくであろうことは、これまでの経験から見ても十分に立

「アジアンエステはなぜ流行するのか」

証できるはずである。数年前の脱毛ブームも同じく関西から火がついたわけであった。

今回の場合は、システム・技術よりも、店の内装から何から何まで、リラクゼーションを特徴としているのがアジアンティックな内装であるとか、あるいは技術、女性スタッフの制服もエステティック調になったり、それから照明も工夫している。通常のエステティックサロンの照明は、明るくなければいけないのである。なぜかと言うと、お客さんの肌の状態が把握できなければならないはずである。

覆すことになるのだ。肌の状態を把握するために明るくなければならぬというのから、逆に光量をダウンしてしまうというのだ。そしてお客様の精神状態をリラクゼーションしていくということが主眼になっているのだ。もちろん、東京や九州にも同じようなサロンがあることはあるが、関西のような大型店は見られなかった。しかし、これから関西のような百坪クラス以上の同規模のサロンが出現してくる可能性は十分あるだろう。

最近、単に「エステティックサロン」といっても、業種や内容が非常に細分化されてきていることだ。数年前から「クイックマッサージュ」という店が増えて来ている。これは時間にして十分、三十分とかで足裏やツボのマッサージなど、背中を押したりするマッサージが非常に低価格で出るといって、どんどん増えてきた。

これが現在も続いており、それがさらにおしゃれになったのが「リフレソロジー」というところがある。これとは違い、アジア方式でライトダウンし、エスニック状態になったのがアジアンエステというわけである。

ストレスを何とか解消したいというニーズから、精神的な安らぎを求めるといふ人がかなり増えて来ているためとも言えるのではないだろうか。